

キャンパス万華鏡 写真が語る 大学の横顔

としおとこ
年男が 2016年は申年！
日本の私立大学を盛り上げる！

学生から卒業後も
頼られる年男



葭村 雄一さん (1956 年生) 崇城大学 学生支援センター

関連中高と大学合わせて勤務 35 年の 60 歳、学生支援センターに配属 1 年半の葭村主任は、朝 7 時には大学へ出勤し、学生の様子を見守る。学生支援センターは学生の学習、生活、就職等の支援活動、加えて中途退学者の防止を目的とする。他の教員や事務員、外部専門家と連携し学生の生活面、精神面を支えている。「せっかく入学してきた学生に来てよかったと満足して卒業し、人生の次のステージへ

巣立って行ってほしい、そのためにできることを 100% サポートする」と葭村主任は語る。同大学の退学者は 5 年前に比べ 4 割近く減少した。人間としての魅力が在学中から強く印象に残っているからか、学生は卒業後も葭村主任を頼って相談に訪れる。ベテラン経験値に加え、笑顔と陽気な性格は、学生に家族のような安心感をもたらす。面倒見の良い大学を築く上で重要な役目を担っている。

女性が輝く
日本の私立大学！



精力的な姿は学生にも大人気の堀部准教授 (写真手前中央)

世界の農業問題に立ち向かう
パワーウーマン

堀部 典子さん

崇城大学 情報学部情報学科 准教授

崇城大学情報学部情報学科 堀部典子准教授は、農業を情報技術の分野から研究する。「若者に魅力的な農業を」との思いから、5 年前に研究がスタート。「アメダスの気象情報」と「農作物の取れ高データ」を対象としてデータマイニング (大量のデータから未知の法則を抽出する技術) 手法を開発中。さらに品種ごとに豊作・凶作の環境要因を見つけ出し、熊本気象条件に適した新たな特産品の発掘につなげる。将来は情報技術を活用した「研究

農場」を開設し、農業に関する情報の蓄積・共有だけでなく、熟練者の農業技術を再現する仕組みの確立を目指す。学内の若手研究者を対象とした研究発表においても、学長賞を受賞。

その精力的な姿は学生にも大人気で、研究も旅行も学生たちとともに楽しむ。情報学科の中では紅一点で、子育てもこなすパワーウーマンの農業を支える研究は世界の農業問題に立ち向かう！